



県南りんごの産業化に貢献

茂木

(稲庭川連町)

巽

茂木氏は、明治二十五年頃既に農業経営の多角化を志して、水田の一部を果樹園に転換、りんご栽培に着手し、以来独力をもつて栽培技術の体得につとめると共に、幾多の犠牲をかえりみず品種の試作を行い、ゴールデンデリシャス、国光、印度、祝等県南地方に適應する優良品種の導入に成功し、その苗木を無償で配布して普及に努力した。この間私有地を解放して窮農の救助を行い私財を投じて農業協同組合の強化をはかる等、りんご栽培の産業化の基礎をきずき本県産業の振興に寄与した功績はまことに大である。



民生の安定に貢献

松野盛吉

(仁賀保町)

松野氏は、大正二年平沢町消防組頭に就任以来四十八年余改制に伴う警防団長、消防団長等を歴任して現在に至っている。

この間町内の消防力の増強に専心し、望楼、機具置場、ポンプ等の整備をはかり、自然利水を改善、防火貯水槽の増設等施設の拡充整備に努力すると共に団員の訓練、警火思想の普及をはかつて、物心両面に亘り完璧した消防町の建設に努力した。

なお、この間郡、県、全国の各消防団体の要職にあつて、その組織の確立と、体質の改善に中心的な活躍をして成果をあげている。また、氏は医師として大正二年以来秋田県医師会の代議員或いは、同会議長等に就任して、現在に至る四十八年余の長期にわたり、県内の保健衛生思想の普及徹底に尽力し、昭和二年平沢町内二カ所に育児相談所の設置に努力して、無料診療を行う等、消防、保健衛生を通して、民生の安定に尽された功績はまことに大である。



文化財の発見保護に貢献

奈 良 環 之 助

(秋 田 市)

奈良氏は、昭和二十六年以来、秋田県文化財専門委員に就任し、現在同委員会議長の職にある。

民俗学及び郷土研究家として、その造詣が深く県内の民俗芸能、民俗資料等自ら探索して、その発見に努め、書跡、典籍、古文書及び阿仁マタギ、八郎潟漁撈などの用具、樺細工等数多くの文化財の指定に努力すると共に、秋田県文化財保護協会々長の職にあつて貴重な文化財の散逸を防止し、その保護に努力している。

また、秋田市立美術館長、秋田県芸術文化団体連盟副会長の要職にあつて、本県の文化活動の中心となつて尽力され、本県文化の向上発展、特に文化財の発見に寄与された功績はまことに大である。



体育振興に貢献

人 見 誠 治

(秋 田 市)

人見氏は、昭和二年秋田魁新報社に入社以来累進して社長の職にあり、現在秋田県体育協会会長、秋田県野球協会会長、日本体育協会理事等の要職にある。

氏はスポーツを愛好し、大正十年同志を募つて旭クラブを創設、少年野球大会を開催して野球の普及をはかると共に、スポーツ記者としてスポーツの指導に努力した。戦後、県内スポーツの復興を提唱して、全県駅伝競争大会および東北六県スキー大会を企画実施するとともに、野球団体の統合をはかるほか、県内体育団体の民主的な組織の確立をはかつて、その強化に努力した。

秋田県体育協会が創設されるや、その副会長、会長を歴任してスポーツ章を制定した。特に第十六回国民体育大会の誘致には中心的な活躍をして、輝かしい成果を収める等本県の体育の振興に寄与された功績はまことに大である。



地方自治の進展に貢献

齋藤幸男

(仁賀保町)

齋藤氏は、昭和二十二年平沢町（仁賀保町）長に就任以来連続四選されて現在に至っているが、この間平沢町と近隣二カ村の合併を行つて仁賀保町とし、平沢漁港の改修、道路の整備、簡易水道及び家庭用ガスの供給施設をなし、統合中学校々舎を新築し、さらに都市計画を策定してこれを実施する等、適切な施策を行つて、同町産業の振興と、町民生活の文化水準の向上に努力した。

また、昭和二十六年より連続五回秋田県町村会々長、その間全国町村会副会長、秋田県新村合併促進審議会、秋田県市町村建設審議会各委員を重任して、本県の町村合併の促進、合併後における市町村の建設に努力せられるとともに、治山、治水、防災その他各種団体の要職にあつて、市町村の育成強化に尽力する等地方自治の進展に寄与した功績は、まことに大である。